



東京都立六本木高等学校 学校だより

ROPPONGI

第2号 令和4年10月4日

季節来遊漁にまつわること

東京都立六本木高等学校長 小宮 徳健

今回は、魚にまつわる話をします。夏が過ぎこの時期になり、伊豆周辺の海の中のをぞくと、沖縄などのサンゴ礁に暮らす魚の稚魚など、多くのカラフルな魚を見ることができます。こうした魚たちを「季節来遊漁」と呼んでいます。以前は、「死滅回遊魚」と呼んでいました。しかし、死滅という言葉自体がよくないこと、越冬し命をつないでいること、自らの意志ではなく黒潮や台風に流されてくること、とすることで、ふさわしい言葉とはとても言えず、「季節来遊漁」と改められました。

こうした、季節来遊漁の一種に、「クマドリカエルアンコウ」という魚がいます。この画像がその魚で、私の家族が伊豆の大瀬崎で撮影したものです。この魚は以前、「クマドリイザリウオ」と呼ばれていました。私の古い図鑑にもそのように記されていますが、この和名では、差別用語となり人権的に問題があります。そうしたことから、「クマドリカエルアンコウ」と和名を変えました。もし、皆さんが、こうしたことを知らず差別用語のまま、魚の名前を使っていたらどう感じますか。こうした名前を使用し、傷ついている人達がいることを知っていますか。



私たちは、知らないからといって、言葉で他人を傷つけることはあってはなりません。また、知らないからと言ってすまされる問題ではありません。人が嫌がること、他人に不快感をもたらすことは、相手の気持ちを考えればできないことです。道徳的に問題があることは当然ですが、気付かなければいいやと言って、他人を不快感にする、嫌な思いをさせることは、人権を無視しています。そして、周りにも迷惑をかけます。人の気持ちというものをよく考えて、コミュニケーションをとれるようになりましょう。相手を思いやるコミュニケーション力、それが、グローバルな社会で必要なことです。

行事報告

【とうきょう総文】

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会(とうきょう総文2022)が「江戸の街 光織りなす文化の花」の大会テーマのもと総合開会式を皮切りに7月31日(日)から8月4日(木)まで開催され、全国から多くの高校生や関係者が一堂に集いました。

東京開催が決定した時は、東京都に吟詠剣詩舞部門はなく、六本木高校ではじまり、六本木高校を中心にはぐまれて今に至ります。出場者兼大会運営スタッフとして昨年度の和歌山大会で、全国大会の息吹を感じて帰ってきた吟詠剣詩舞を始めたばかりの14名が、この夏、何もかもがはじめての大会を多くの仲間とともに成功へと導いてくれました。

最後の部門別委員会での「この経験は自分にとって大きな自信につながった。陰ながら支えてくださった方々に感謝するとともに、最幸の夏をありがとう！と関わったすべての人と分かち合いたい。」との生徒実行委員長の風原航輝くんの言葉には充実感を覚えた生徒委員も少なくないだろう。

12月の伝統芸能フェスティバル(in京都)、来年度のかごしま総文2023での活躍にもどうぞご期待です☆

＜都美術館前の総文祭のぼり制作に参加＞

総文祭開催期間、都美術館入口を全国からやってくる参加者やお客さまを「47都道府県のぼり」で歓迎する、虹プロムナード企画に参加しました。六本木高校美術部は島根県を担当し、サスノオと八岐大蛇、出雲大社などをモチーフにオレンジ色ののぼりを制作しました。



【インターンシップ】

3年ぶりにインターンシップが再開されました。今年は、保育園（4名）・美容院（2名）・学童（1名）で実施しました。遅刻・欠席者もなく、事前指導2回、挨拶訪問、事後指導を経て無事に終了しました。インターンシップ体験を通して、各々社会生活で大切なことを学べたようです。

保育園でのインターンシップを終えた生徒の声を紹介します。

○「共に働いている人からの学びや、お客さんにサービスを提供していく中で感じる楽しさややりがい自分が蓄積されて、人として成長できることも働くことの目的になると思いました。」

○「インターンシップ前は、お金が「働くこと」の一番の目的でしたが、今は人と関わることが「働くこと」の一番良いところだと考えています。」

【短期集中講座】 7,9,12月に実施。特色ある37講座から選択し、普段とは異なる学習に取り組みます。

「卓上ゲーム」

この講座は、電子ゲーム主流の世代の生徒が、昔からある卓上ゲームに親しみ、各種ゲームのかけ引きや戦略を学ぶことをテーマに行いました。最初はうまく自分の言葉で説明できなかった生徒も、徐々に話すことができるようになり、コミュニケーション能力も向上したようです。JETのTim先生も一緒に英語と日本語で参加しました。



「数学「超」入門」

この講座は、六本木高校での「数学」の授業で困っている人のために、今年度開講しました。生徒の皆さんからの質問に対して、丁寧に解説を行い、分かるまでとことん付き合うことを心掛けています。

例えば、正負の計算方法を確認する場面では、トランプを使うことで、楽しく復習することができました。次回も、生徒の皆さんの理解をサポートするような操作活動を取り入れて、講座を盛り上げていきたいと考えています。



授業の紹介

【日本探訪】

夏休み中に、北海道小樽で2泊3日の実地学習を行いました。行先は、7月までの授業の中で、生徒が全国津々浦々を調べて決めました。限られた期間と費用で実現可能な行程を話し合い、特に希望が強かった行先を選択できました。生徒達は、大都市東京にはない、自然・文化に実際に触れ、教養を高めることができました。景色を楽しみながら、食べ物にも夢中な様子でした。事故無く楽しく旅を楽しむことができて良かったです。卒業後も日本の探訪を楽しんでほしいです。

（左は小樽運河・右は青の洞窟 生徒撮影）



【海洋エコツーリズム】

校内での学習を経て、実習として神奈川にある荒崎公園の磯に行ってきました。海洋生物専門の講師中心の指導のもと、タイドプールで様々な生物を観察しました。去年見られた生物がいなかったり、通常はもう少し南の海にいる生物を捕獲できたりと、潮の流れや温暖化についても学ぶことができました。



活動の紹介

【華道部】

8月19日に花の甲子園2022全国大会出場を目指しリモート地区大会に臨みました。

花の甲子園とは、池坊いけばなを学ぶ高校生が3人1組で花を生けるコンクールで、地区大会はいけこみを撮影した動画と作品写真を送る形で行われます。

今年の地区大会のテーマは「HOME」。いけばなには時間制限やその他の細かいルールがあります。華道を始めたばかりの部員もいましたが、3人がチームワークを発揮しながらそれぞれの個性を大切にしつつ、テーマに沿った1つの作品を完成させることができました。

